



平成26年度 第1回 会 員 交 流 会

日時：平成 26年 9月 29日（月）
12時開場－17時閉場

会場：ホテル東日本盛岡
3F 鳳凰の間、青雲の間
（岩手県盛岡市大通3丁目3-18）

会場全体図

- ※ 会場の詳細はp3～6をご覧ください。
- ※ クロークをご利用いただけます。
- ※ 冷水はセルフサービスでご利用いただけます。
- ※ 喫煙スペースは2階にございます。

<青雲の間>

C会場

- ・ブース出展(P6)
- ・プレゼンテーション(p3)
- ・パネルディスカッション(p7)

出入口

出入口

エレベーター

EV

お手洗い



パネル展示団体（五十音順）

- ・岩手県立大学
- ・インフォコム株式会社
- ・「失われた街」模型復元プロジェクト
実行委員会
- ・NECネットエスアイ株式会社
- ・震災がれきと産業副産物のアロケー
ション最適化コンソーシアム
- ・一般社団法人ピースポート災害ボラン
ティアセンター

打合せコーナー

打合せコーナーを設置します！
当日予約制です。「総合受付」
までお越しください。
(1組あたり20分程度)

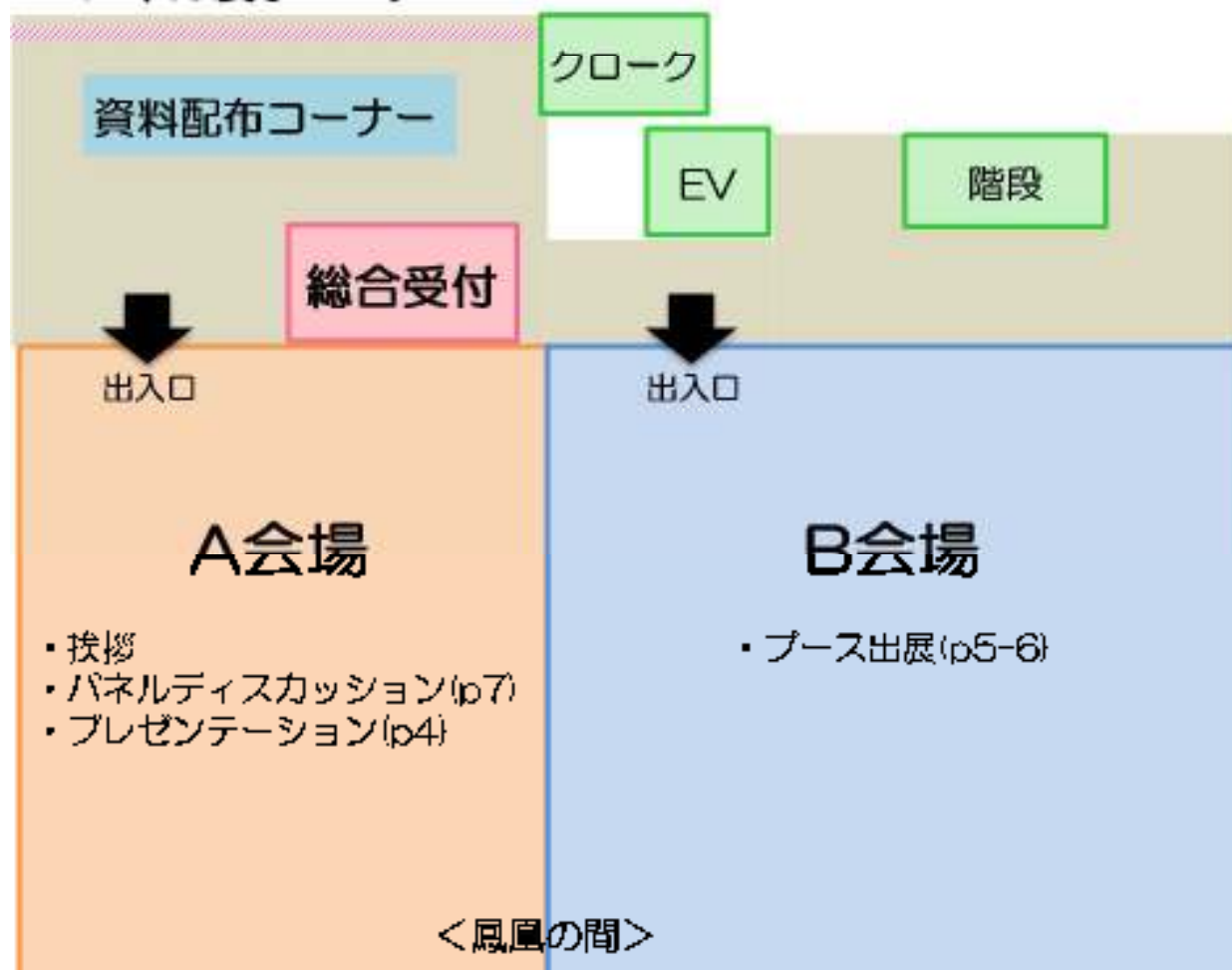
【ご注意事項】

- ※ ご来場時は「A会場」前の「総合受付」にお越しください。
- ※ 貴重品管理は各自でお願いします。
- ※ ゴミはお持ち帰りください。
- ※ 当交流会はマスコミオープンとなります。予めご了承ください。

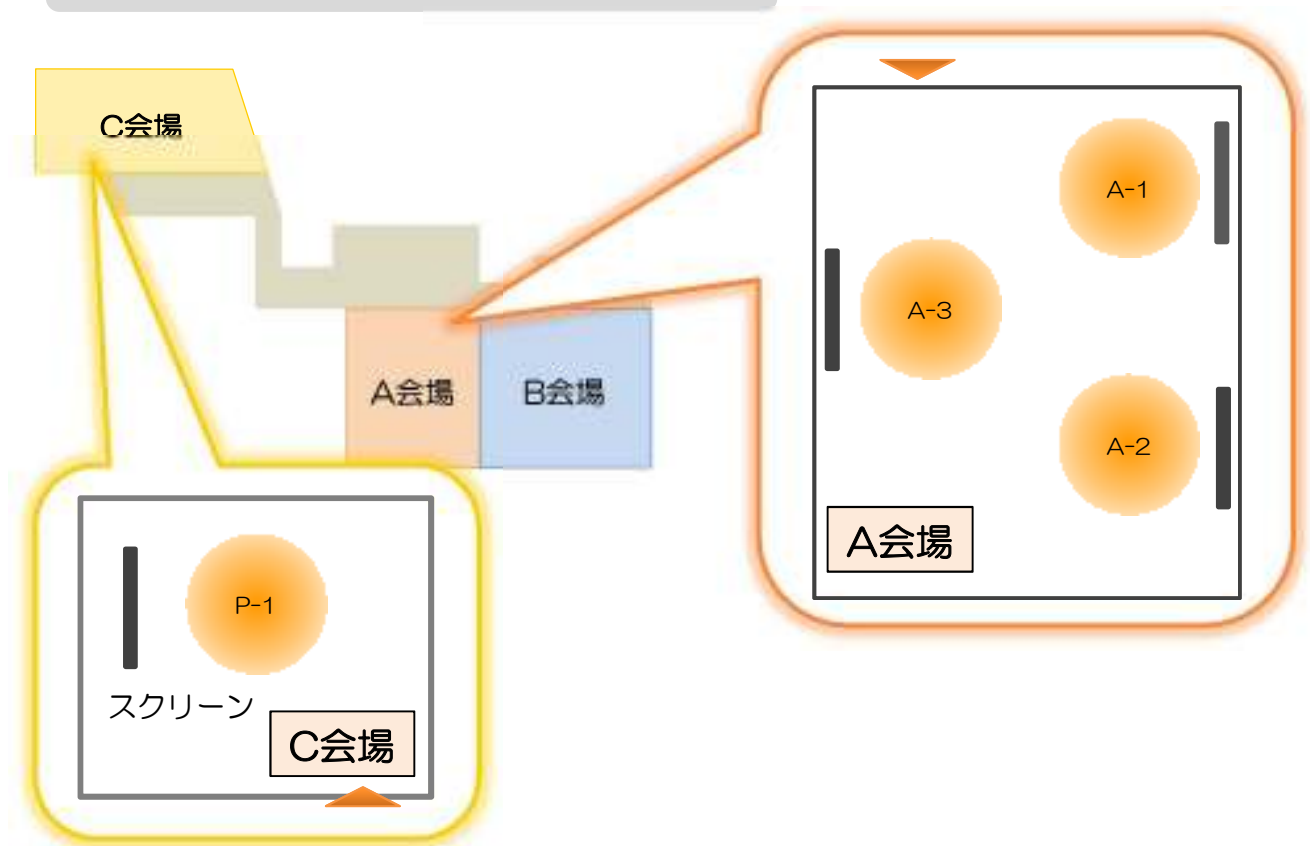
タイムテーブル

	A会場	B会場	C会場
12:00 開場	プレゼンテーション		プレゼン
13:00			
14:00	挨拶 (13:30~) パネルディスカッション	ブース出展	一時休止
15:00			パネルディスカッション
16:00	プレゼンテーション		プレゼン
17:00 閉場			

パネル展示コーナー



プレゼンテーション



C会場

時間	P-1
12:10-12:25	地域に根ざしたICTサービス活用による頑健で活力ある街づくり 株式会社日立ソリューションズ東日本 我々は、防災・減災や街づくりで重要な地域の自助・共助・公助の強化手段の1つとして、より良いICTサービスの活用モデルを検討しています。本日は、この取組の概要や、先日の岩手県滝沢市・宮城県角田市の防災訓練でのニーズ調査の結果をご紹介します。
12:30-12:45	いのちと地域を守る 津波防災アクション「カケアガレ！日本」 いのちと地域を守る 津波防災アクション「カケアガレ！日本」 東日本大震災で甚大な被害を引き起こした津波からの避難をテーマに、河北新報社をはじめとする地方新聞社、東北大学災害科学国際研究所、電通グループが地域と連携して津波避難訓練等を実施し、地域特性に応じた津波避難訓練プログラムの開発に取り組む。
12:50-13:05	「コンパクトな地域づくりを目指した地区防災計画立案技術の開発」事業における進捗について 京都大学防災研究所 巨大災害研究センター、(株)岩崎敬環境計画事務所、新潟大学災害・復興科学研究所、(株)博報堂 専門家の知見と地元の体験を共有し、地域住民が主体となって自らの地区リスクを徹底的に洗い出し、対応策を見出すことから防災計画を作成する。その過程を踏まえ、コンパクトなまちづくりを目指した地区防災計画の立案技術の開発、標準化を目指す。
13:10-13:25	道路調査画像の、アーカイブ利用による 防災・復興支援 インクリメントP株式会社 デジタル地図制作にあたり、全国の道路を走行調査、震災以前の全ての道路周辺画像を撮影しています。東北地方で失われた故郷の風景を次世代に伝えるためのデジタルアーカイブ、震災検証、防災教育、防災対策等へ活用に関する企画のご提案をいたします。
15:40-15:55	日本財団「WORK FOR 東北」事業について 日本財団 東日本大震災復興の加速を目的として、2013年度よりスタートした復興人材プラットフォーム構築事業「WORK FOR 東北」。民間の力で復興を加速することを目的とした本事業の、これまでの取り組みの成果のご報告と今後の展開のご紹介をします。
16:00-16:15	一人一人がつくる安全・安心のまちづくり コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会 石巻の中心市街地における「歩いて逃げられる街なか避難」の仕組み作りの一環として、前年度事業で開発した「津波伝承ARアプリ」の防災教育ツールとしての発展・防災まちあるきへの展開、事業主（料理店）の防災・減災への取り組みなどについて紹介する。
16:20-16:35	被災訓練プログラム SENDAI CAMP ～あなたの“生きる力”を高めよう！～ 「生きる力」市民運動化プロジェクト SENDAI CAMP実行委員会 被災体験というよりも実践的な形で模擬体験する「被災体験プログラム」を開発中。9/27（土）14：00～9/28（日）8：00頃の約18時間、実際に仙台市の街なかの公園でテント泊を実施した模様を紹介します。

A会場

時間	A-1	A-2	A-3
12:10-12:25	みちのく未来基金の活動について 公益財団法人 みちのく未来基金 当基金は、東日本大震災で両親またはいずれかの親を亡くした子どもの、高校卒業後の進学を支援する奨学金団体です。大学・短大・専門学校等への進学について、入学金・授業料の全額を給付します（返済義務なし、一人あたり年間上限給付額は300万円）	いわての“いいイロ”発信プロジェクト紹介 MCL専門学校グループ 盛岡情報ビジネス専門学校 「人の心とイマジネーション」に語りかける“地域特有の色”を、[魅力的な名称と物語]とで定義することで、観光誘客やプロダクト開発・販売など、非常に多岐にわたる活用が可能な地域経済発展のシース（種）を育む本事業の紹介をします。	いわて新事業創造プラットフォーム形成協議会の取組み 岩手銀行 地域サポート部 いわて新事業創造プラットフォーム形成協議会は継続的な起業・創業支援を行うプラットフォームの形成を目指すことを目的に、平成25年11月に設立しました。これまでの取り組み状況について、ご説明させていただきます。
12:30-12:45	プレーカーであそぼ！ NPO法人日本冒険遊び場づくり協会 当協会では、「子どもが“遊び”をつくる遊び場」＝プレーパーク(冒険遊び場)の支援活動や、子どもが“遊び”をつくる道具を載せた「プレーカー(あそぼっかー)」の出前活動を被災三県で2011年から実施してきました。その活動をご紹介します。	岩手三陸沿岸の起業支援と、新たな販路開拓支援プロジェクトの提案と実践 岩手県（一般社団法人さんりく未来推進センター） 岩手県沿岸における被災者等への起業支援の取組を紹介。また、起業後の課題となる販路開拓に向けて、新たな挑戦プロジェクト『さんりくチャレンジ』を紹介するとともに、商品を輝かせる「三陸のこだわり」（さんりくのみ意識）を提案する。	震災復興へのDBJの取り組み ～地域企業の価値向上に向けて～ 株式会社日本政策投資銀行 震災復興ファンド等による資金ニーズへの対応、地域資源を活用した観光と食のコラボレーション創出や日本酒の消費拡大に向けた仕掛けなど支援先企業の価値向上への取り組み等、DBJの創造的復興に向けた取組をご紹介します。
12:50-13:05	手編みのニットでチャリティグッズからビジネスへの自立に向けて NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク 震災発災以降、手作りのニット製品のチャリティグッズを作ってきた女性約50名がこの3年間で熟練した手作りニットの編手となった。これからはチャリティグッズから発展し、ビジネスとして手編みのニット製品を作成し販売する事業者としての起業を目指す取り組み。	物から物語の交易時代へ 地域資源活用推進協議会 これまで「価値」だと地元が認識することの無かった「世界三大漁場の漁師料理」という、絶対的優位にある食文化に焦点を当て、「水産加工業」ではない「たそ事業」へと業態転換を行います。雇用の安定化と経済波及効果の高い産業モデルを目指します。	震災復興支援アドバイザー制度のご案内 独立行政法人 中小企業基盤整備機構 東北本部 独立行政法人中小企業基盤整備機構で実施している、震災復興支援アドバイザー制度のご案内です。この制度は、東日本大震災において被災された中小企業へ、経営に関するアドバイザーを派遣し支援を行うものです。
15:00-15:15	風景と心の復興 東京藝術大学社会連携センター 風景と心の修景および創景プロジェクトチーム 以前の美しい風景の多くを失ってしまった東北はこれからどのように再生していくのでしょうか。今こそ“新しい東北と日本”を創造できるチャンスではないでしょうか。被災地の風景の修景・創景と「心の復興」について、当事業における取組みを紹介し説明します。	東北海外展開加速化協議会の取組みについて 東北海外展開加速化協議会 当協議会では、輸入条件の厳しい欧州や米国等に対してもチャレンジできる東北産品の輸出拡大モデルを構築することを目的とし、様々な取組を行っています。	「未来を創る 東北の力 -科学技術の英知・絆の成果-」JST復興促進センターにおける復興促進プログラムによる取り組みと成果 (独) 科学技術振興機構 JST復興促進センター 復興促進プログラムを活用した被災地企業と学との共同研究への支援に關し、その取り組みと成果についてご紹介いたします。
15:20-15:35	東北☆家族プロジェクト 東北☆家族 東北自慢の名産品をモデルにしたキャラクター群『東北☆家族』。愛と感謝とあきらめない心を世界に伝えようと立ち上がりました。絵本やアニメなどの物語制作、グッズ開発などを展開し、ユニークで明るい風化防止のシンボルとして活躍していきます。	旬感保冷大根復興絆便【魚介類の高鮮度保持輸送システム】 デジタルブックプリント株式会社 最新の保冷および管理技術を活かした鮮魚を高鮮度に保ち普通便で輸送する技術をご案内、今回は保冷剤の蓄熱完了を可視確認できる新タイプもご紹介します。平成25年度REVIVE JAPANCUP「大賞」を受賞したビジネスモデルです。	大根町復興計画3Dモデリング作成等事業&ICT関連の人材育成における開発実績および雇用実績の紹介 一般社団法人 KAI OTSUCHI 大根町復興計画3Dモデリング作成等事業について、その事業内容と、どのように復興計画に活用されているかを紹介いたします。また、ICT関連の人材育成・開発実績・雇用実績について、弊社での取組みをiPhoneアプリ開発を中心に紹介いたします。
15:40-15:55	新たな公民連携を考える ---身の丈まちづくりの御紹介--- 大和リース株式会社 大和リースの震災復興のこれまでの取り組みと、これからの震災復興に求められる官民連携事業における取り組みについて	「東北発！百貨店推奨ブランド」東北の百貨店バイヤーがセレクト 東北の味と工芸 日本百貨店協会 百貨店の現役バイヤーの知識・情報力、百貨店OBの経験を活かし、被災地の魅力ある商品を発掘、プランニングや販路拡大を図る。	デザインのかで復興を～商品力向上・販路開拓支援～ 地方独立行政法人岩手県工業技術センター 主に、食産業の事業者を対象とし、教育機関やデザイナー等のネットワークを活かしたデザイン開発支援の取り組みのほか、デザイン制作に繋げるための、商品開発、販路開拓の支援について。
16:00-16:15	UR都市機構の復興支援の取組み UR都市機構 URが取り組む復興市街地整備事業と災害公営住宅整備事業の現状をお伝えするとともに、災害公営住宅における高齢者・コミュニティ支援、中心市街地のビルトアップ支援、産業誘致の取組み等についてもご紹介いたします。	東北ウッド・クラフト・ネットワークの起業 一般社団法人 和RING-PROJECT 大根、釜石をはじめとする東北地方の豊かな森林と木工の職人的ものづくりを先進的な技術を用いて再生・起業を目的としています。地域連携により木材の循環構造（伐採～製材～製造・販売までを地域内で一貫するサプライチェーン）を創り上げる取組です。	BIM/CIM/ものづくり3次元ソリューション 人材育成・企業支援 いわてデジタルエンジニア育成センター いわてデジタルエンジニア育成センターでは、土木（CIM）・建築（BIM）・製造業の3DCAD講習・支援を行っています。各企業における最適な3DCADの紹介や、講習、運用などの3D技術支援を丁寧にご提供いたします。お気軽にお問合せください
16:20-16:35	ミライニホン・元気村プロジェクト ミライニホン・元気村プロジェクト 陸前高田市広田地区長洞元気村での取り組みの紹介。ビジョン創出型のワークショップ手法を用いて元気村のビジョンを地区住民みなさまと共に構築したプロセスと、防災拠点ともなり得る集会所のマスタープランについてご説明致します。	中古着物地によるリメイク雑貨製造販売事業～感謝を包む手仕事でグローバルブランドを創るチャレンジ！～ 一般社団法人WATALIS 全国から寄せられた着物地を女性達の手で加工し、地域に受け継がれてきた文化や人々の想いを形にしたリメイク雑貨を企画・製造・販売。筆等に眠る着物地の価値を高めて再び市場に投入する「アップサイクル文化」を醸成し、組織のリサイクル率向上を図る。	東北復興における復興コーディネイト事業について 一般社団法人RCF復興支援チーム RCFは、行政(復興庁、県庁、被災市町村)および大手企業のパートナーとして、10以上の復興プロジェクトをコーディネイト(企画・運営・調整)しております。その事例とコーディネイトの進め方を共有・報告させていただきます。

ブース出展



B-01

「奥会津金山赤カボチャ」～高齢者による循環型産業開発事業

奥会津金山赤カボチャ食のモデル地域実行協議会

「奥会津金山赤カボチャ」は栗のような食感と果実並みの甘さが特徴のブランド野菜である。高齢化率全国2位の金山町ではこのカボチャを使った町興しがスタート。当協議会では赤カボチャを使った商品開発やプロモーション活動など積極的に取り組んでいます。

B-02

旬感保冷大槌復興絆便【魚介類の高鮮度保持輸送システム】

デジタルブックプリント株式会社

最新の保冷および管理技術を活かし鮮魚を高鮮度に保ち普通便で輸送する技術をご案内、今回は保冷剤の蓄熱完了を可視確認できる新タイプもご紹介いたします。平成25年度REVIVE JAPANCUP「大賞」を受賞したビジネスモデルです。

B-03

物から物語の交易時代へ

地域資源活用推進協議会

産地でしか食す機会のない漁師料理を、獲れたて、造りたての品質のままCAS凍結にて会場に持ち込み、加温、試食会を開催いたします。少量から製造受託が可能ですので、是非、ご利用ください。

B-04

安全・安心な岩手県産農林水産物の紹介

岩手県農林水産部流通課

豊かな大地や世界有数の漁場である三陸の海に恵まれた岩手県は、全国有数の食料供給基地です。生産段階における安全性の確保やHACCPの導入等により、生産から販売までの各工程管理システムを構築し、安全・安心なサプライチェーンの確立を進めています。

B-05

岩手三陸の起業者の商品展示と、参加企業様との結び付けプロジェクト『さんりくチャレンジ』の実践

岩手県（一般社団法人さんりく未来推進センター）

新たな挑戦としての販路開拓推進プロジェクト『さんりくチャレンジ』の①プロジェクトのご案内②岩手三陸の参加起業家10余名の商品展示とそれらとの橋渡し・仲介③商品を開発する「三陸のこだわり（さんりくのみ意識）」の紹介と情報交流のお願い。

B-06

百貨店バイヤーが選ぶ「東北発！百貨店推奨ブランド」

日本百貨店協会

東北の百貨店(10社)現役バイヤーが、東北産品の魅力を再発見し、さらなる魅力を引き出すために、「東北発！百貨店推奨ブランド」としてカタログ化。カタログ内容の紹介と、百貨店OBIによるアドバイス事業について紹介。

B-07

WATALIS

一般社団法人WATALIS

全国から寄せられた着物を女性達の手で加工し、地域に受け継がれてきた文化や人々の想いを形にしたリメイク雑貨を企画・製造・販売。華やかに眠る着物地の価値を高めて再び市場に投入する「アップサイクル文化」を醸成し、繊維のリサイクル率向上を図る。

B-08

株式会社日本政策投資銀行（DBJ）の業務ご紹介

株式会社日本政策投資銀行

震災復興への取り組みや世界初のBCM格付融資を通じたファイナンス面からの企業の防災力強化支援など、DBJの業務についてご紹介します。

B-09

大和企業投資株式会社

大和企業投資株式会社

弊社の会社概要、投資実績の紹介と、東北の企業様からのエクイティ投資による資金調達のご相談をお受けいたします。

B-10

大和リース㈱の官民連携における復興支援

大和リース株式会社

①大和リースの震災復興のこれまでの取り組みと、これからの震災復興に求められる官民連携事業における取り組みについて
②大和リース㈱の事業紹介
③大和リース㈱の先進事例紹介

B-11

東北財務局業務紹介

東北財務局盛岡財務事務所

個人債務者の私的整理に関するガイドライン（被災ローン減免制度）、金融犯罪被害防止のための取組み、国の財政事情・社会保障と税の一体改革等に関する資料の配布を行います。

B-12

大槌町3DモデリングとiPhoneアプリ開発の展示

一般社団法人 KAI OTSUCHI

大槌町の復興計画3Dモデリングを展示します。実際に操作して町内各所の宅地造成等を閲覧することが出来ます。また、これまで弊社が開発してきたiPhone用のアプリを展示します。是非ダウンロードしてみてください。

B-13 URの復興まちづくり支援 UR都市機構 URの復興まちづくり支援について、進捗状況を被災市町村別にまとめたパネルを展示。	B-14 宮古市スマートコミュニティの紹介と新しい官民連携 宮古市スマートコミュニティ推進協議会 宮古市と民間企業グループは、再生可能エネルギーの地産地消、災害に強いエネルギー供給の実現を官民一体となって進めています。行政と民間がそれぞれの役割を果たしながら一つの事業を作り持続していく新たな手法で復興に寄与するまちづくりを行っています。	B-15 岩手医科大学災害時地域医療支援教育センターの取り組み 岩手医科大学災害時地域医療支援教育センター 東日本大震災・津波以後、当センターでは、文部科学省「大学改革推進等補助金（大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業）」を活用し、全国に発信できる災害時医療体制モデルの確立、実践としての災害医療教育による人材育成を行っております。
B-16 公益社団法人日本栄養士会 公益社団法人日本栄養士会 東北3県の栄養士会と一緒に進める「保育所を活用した生活不活発病防止給食受け取りシステムの構築」事業、略して“東北発！ほっこり弁当プロジェクト”の紹介と、日本栄養士会の活動をご紹介します。	B-17 プレーカーであそぼ！ NPO法人日本冒険遊び場づくり協会 当協会では、「子どもが“遊び”をつくる遊び場」＝「プレーパーク(冒険遊び場)の支援活動や、子どもが“遊び”をつくる道具を載せた「プレーカー（あそぼっカー）」の出前活動を被災3県で2011年から実施してきました。その活動をご紹介します。	B-18 公益財団法人 みちのく未来基金 公益財団法人 みちのく未来基金 リーフレットおよび通信誌の配布、奨学生の集いなどのVTR放映（パソコンまたはポータブルプレイヤーにて）
B-19 震災復興支援アドバイザー制度のご案内 独立行政法人 中小企業基盤整備機構 東北本部 独立行政法人中小企業基盤整備機構で実施している、震災復興支援アドバイザー制度のご案内です。この制度は、東日本大震災において被災された中小企業へ、経営に関するアドバイザーを派遣し支援を行うものです。	B-20 BIM/CIM/ものづくり3次元ソリューション 人材育成・企業支援 いわてデジタルエンジニア育成センター いわてデジタルエンジニア育成センターでは、土木（CIM）・建築（BIM）・製造業の3DCAD講習・支援を行っています。各企業における最適な3DCADの紹介や、講習、運用などの3D技術支援を丁寧に提供いたします。お気軽にお問い合わせください。	B-21 東北☆家族 東北☆家族 タンブラーにトートバッグ、アクセサリー、缶バッジ、手ぬぐい…etc。カワイイ！と買って使うだけで東北の応援になるエンカナルグッズたち。売上の10%が被災地に寄付されます。お土産やプレゼント、オフィスで使える雑貨としても人気です。
B-22 風景と心の修景および創景事業・共時空体験的ふるさと再生と創造 東京芸術大学社会連携センター 風景と心の修景および創景プロジェクトコンソーシアム 当事業は東北の失われた風景を多くの断片的な記録からアーカイブ化し、また芸術表現作品として再生して、新しい風景とふるさとの創造にヒントと貢献を提供することを目的として、風景の収集・修景・創景の3つの事業に取組んでいます。	B-23 東北ウッド・クラフト・ネットワークの起業 一般社団法人 和RING-PROJECT 大槌、釜石をはじめとする東北地方の豊かな森林と木工の職人的ものづくりを先導的な技術を用いて再生・起業を目的としています。地域連携により、木材の循環構造（伐採～製材～製造・販売までを地域内で一貫するサプライチェーン）を創り上げる取組です。	B-24 東日本大震災チャリティグッズ+手編みニット作品 NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク 震災発災以降、手作りのニット製品のチャリティグッズを作ってきた女性約50名がこの3年間で熟練した手作りニットの編手となった。これからはチャリティグッズから発展し、ビジネスとして手編みのニット製品を作成し販売する事業者としての起業を目指す取り組み。
B-25 いわての“いいイロ”発信プロジェクト MCL専門学校グループ 盛岡情報ビジネス専門学校 「人の心とイマジネーション」に語りかける“地域特有の色”を、【魅力的な名称と物語】とで定義することで、観光誘客やプロダクト開発・販売など、非常に多岐にわたる活用が可能な地域経済発展のシース（種）を育む本事業の紹介をしております。	B-26 国立大学法人福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 国立大学法人福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興支援活動の取り組みなどを紹介するパネルや活動報告書等並びにセンターの各種リーフレットを展示します。	B-27 地方独立行政法人岩手県工業技術センター～技術で復興をお手伝いします～ 地方独立行政法人岩手県工業技術センター 岩手県工業センターでは、“「がんばろう！岩手」～技術で復興をお手伝いします～”を合言葉に、技術支援による復興支援に取り組んでいます。ブースでは、当センターの支援メニューを紹介するとともに、県内企業様の技術相談にも対応いたします。
B-28 RCF復興支援チーム 復興コーディネイト事例のご紹介 一般社団法人RCF復興支援チーム RCFは「キリン絆プロジェクト」「イノベーション東北」「復興支援員制度」など、産業復興およびコミュニティ形成において多数の復興プロジェクトをコーディネートしています。復興コーディネイトに関心ある行政・企業の皆様はぜひお越し下さい。	B-29 日本財団「WORK FOR 東北」 日本財団 民間の力で復興を加速することを目的とした復興人材プラットフォーム構築事業「WORK FOR 東北」の、これまでの取り組みの成果のご報告と今後の展開のご紹介。復興への関わりを模索されている企業様のご相談にも応じます。	B-30 「未来を創る 東北の力」～科学技術の英知・絆の成果～ JST復興促進センターにおける復興促進プログラムによる取り組みと成果 （独）科学技術振興機構 JST復興促進センター 復興促進プログラムを活用した被災地企業と学との共同研究への支援に關し、その取り組みと成果についてご紹介いたします。合わせて具体的な成果事例の紹介パネルや、成果品の展示をいたします。
B-31 「いわてトライアングッド」の紹介 特定非営利活動法人いわて連携復興センター 岩手県内のNPOをはじめとした団体と企業の「win-win」な連携を促進する「いわてトライアングッド」プロジェクト。今回はそのプロジェクトの紹介とその第一段の取り組みとして行う寄附付き商品の紹介をします。	C-01 地域に根ざしたICTサービス活用による頑健で活力ある街づくり 株式会社日立ソリューションズ東日本 我々は、防災・減災や街づくりで重要な地域の自助・共助・公助の強化手段の一つとして、より良いICTサービスの活用モデルを検討しています。本日は、この取組の概要や、ICTサービス活用モデルの検証で利用予定の開発中システムをご紹介します。	C-02 一人一人がつくる安全・安心のまちづくり コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会 石巻の中心市街地における「歩いて逃げられる街なか避難」の仕組み作りの一環として、前年度事業で開発した「津波伝承ARアプリ」の防災教育ツールとしての発展・防災まちあるきへの展開、事業主（料理店）の防災・減災への取り組みなどについて紹介する。
C-03 いのちと地域を守る 津波防災アクション「カケアガレ！日本」 いのちと地域を守る 津波防災アクション「カケアガレ！日本」 東日本大震災で甚大な被害を引き起こした津波からの避難をテーマに、河北新報社をはじめとする地方新聞社、東北大学災害科学国際研究所、電通グループが地域と連携して津波避難訓練等を実施し、地域特性に応じた津波避難訓練プログラムの開発に取り組む。	C-04 被災訓練プログラム SENDAI CAMP ～あなたの“生きる力”を高めよう！～ 「生きる力」市民運動化プロジェクト SENDAI CAMP実行委員会 「みんなの声を、未来の自助につなげよう」をテーマに、274名の高校生と大学生や一般の方々と、災害時に「アレがよかった」「コレが困った」という意見をみんなで出し合い、これからの自助に役立つ“災害アレコレカード”を制作しました。	C-05 ミライニホン・元氣村プロジェクト ミライニホン・元氣村プロジェクト 陸前高田市広田地区長洞元氣村での取り組みの紹介。ビジョン創出型のワークショップ手法を用いて元氣村のビジョンを地区住民みなさまと共に構築したプロセスと、防災拠点ともなり得る集会室のマスタープランについてご説明致します。

パネルディスカッション

A会場 13:50-14:40

官民連携による災害予防対策

「新しい東北」先導モデル事業では、「防災」に関する様々な取組（防災教育、普及啓発、防災計画、避難訓練）を行っています。これら取組の魅力と工夫、これからの展望について、メディア、大学、地元事業者（石巻）、専門家、自治体（滝沢市）など、実際に取り組んでおられる皆様をお呼びし、幅広い視野からの意見交換を行います。

ファシリテーター

室崎 益輝 氏（ひょうご震災記念21世紀研究機構 副理事長）

パネラー

木村 浩人 氏（河北新報社 営業局営業部兼営業戦略室 副部長）

佐藤 翔輔 氏（東北大学 災害科学国際研究所 助教）

阿部 紀代子 氏（八幡家 代表取締役（石巻））

岩崎 敬 氏（岩崎敬環境計画事務所）

赤迫 満 氏（滝沢市 経済産業部企業振興課）

C会場 15:00-15:30

官民連携による地域課題の解決

被災地では、震災復興を契機として、官民連携で地域課題解決を進める取組が求められています。既にこうした取組を推進している自治体の皆様をお招きし、官民連携の体制づくりや今後の展望についてご紹介します。

ファシリテーター

藤沢 烈 氏（RCF復興支援チーム）

パネラー

大関 輝一 氏（大船渡市市民活動支援協議会 代表）

志田 努 氏（大船渡市企画政策部企画調整課長）

石井 重成 氏（釜石市復興推進本部事務局兼総合政策課係長
（官民連携推進担当））

大林 正英 氏（釜援隊（※）、釜石・大槌地域産業育成センター）

※ 「釜援隊」は、釜石市より委嘱を受け、市内NPOやまちづくりの議論を行う団体・市関係機関等を支援し、連携を促す役割を担われています。

- MEMO -

事務局からのお知らせ

■ 打合せコーナーを会場に新設しました！

- ・一組あたり20分程度、ご利用いただけます。
- ・当日、「総合受付」で利用予約を受け付けます。
皆様お揃いの上、「総合受付」までお越し下さい。

■ 協議会ウェブサイトを更新しました！

- ・トップページを更新し、
お求めの情報にアクセスしやすくしました。
(URL：<http://www.newtohoku.org/>)
- ・ウェブサイトの掲載情報を充実しました。
(コラムコーナーの新設、情報量の大幅な拡充など)
- ・会員専用サービスをより使いやすくしました。
- ・協議会ウェブサイトは皆様からの情報を求めています。
支援情報、イベント等、積極的にご登録ください！

【お問い合わせ】

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
みずほ総合研究所株式会社 社会・公共アドバイザリー部
E-Mail：nt-info@mizuho-ri.co.jp
TEL：03-3591-8773（平日9時30分～17時30分）
URL：<http://www.newtohoku.org/>